平成２９年度

事業計画

社会福祉法人　光照園

江　戸　川　光　照　苑

Ⅰ． 理念・品質方針

施設の理念

私たちは、人々の幸せを創造し、福祉サービス事業者として、常に一流としての品質と地位を維持し、社会に高く評価され、ご利用者に満足いただける最高のサービスを提供します。そして、地域、社会、環境に貢献するホスピタリティ事業者として、将来に亘り、事業の永続的な発展を目指します。

品質方針

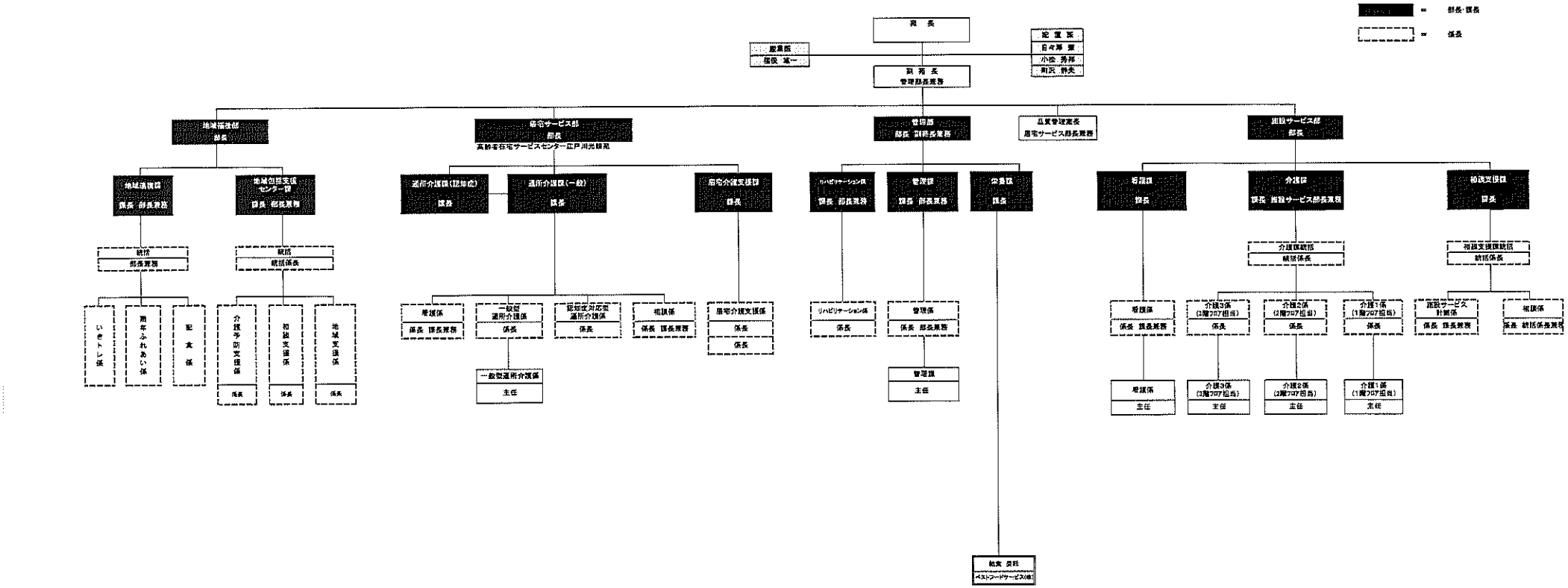
一． 私たちは、すべての人々の期待に応えるパーソナルなサービスとホスピタリティの精神によって、創造性と先駆性ある事業を展開し、人々からの高い信頼と満足を得ます。

一． 私たちは。１人ひとりのライフステージのファンとなり、その価値を受け止められる「人としての豊かさ」を身につけ、研鑽と努力を惜しまず、プロとして専門性を高め、介護サービスのあるべき姿を提示します。

一． 私たちは、事業経営の安定性と透明性を確保するとともに、生命あるものや環境を大切にした地域社会の創造と発展に貢献します。

一． 私たちは、江戸川光照苑へ寄せられる貴重なご意見、ご批判などを真摯に受け止め、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、常に成長し変化し続けながら、一貫した良品質のサービスを提供する江戸川光照苑ブランドを構築します。

Ⅱ．江戸川光照苑　組織職制一覧



Ⅲ．平成２９年度　事業計画作成について

１はじめに

昨今、高齢者の在宅福祉事業数の増加によりディサービスの運営は大変厳しい競争のもとにおかれている。介護福祉施設も例外ではなく、有料老人ホーム、高齢者専用住宅の増加やサービスの充実などによる、住まい方の多様化という競争の中での運営を余技なくされている。

さらにまた、これまで、事業対象者の高齢者を対象とし、江戸川区より委託を受け実施してきた熟年ふれあいセンター、熟年いきいきトレーニングの両事業の委託が次年度をもって終了することとなった。このことは、江戸川光照苑の運営に、少なからず影響を及ぼすものである。

このように厳しい状況に置かれているとはいえ、今、社会福祉法人には地域における社会貢献のさらなる拡大・推進への取り組みが求められている。

江戸川光照苑は、昨平成28年に設立20年という節目の年を迎えた。

29 年度は新たな一歩を踏み出す年と認識し、今後の 20 年がこれまで以上に地域、利用者のニーズに応え、必要とされる施設で有り続けられるよう、着実な歩みを進めていく。

２計画の視点及び計画の内容

本年度は、平成 27 年度に各事業が持つ課題の解決を目標として作成した中長期計画の終盤にあたる。このことから、本年度の計画は各事業において、これまでの２年間の成果を踏まえ、さらに課題解決に向けて実施するべき内容をより具体的に示すものとした。

また、課題解決策に加え計画作成の共通の目標を、必要な人材の育成、経営改善のための方策、ご利用者の生活の安定と地域・家族との連携とした。

（１）介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

・事業経営の改善のため、稼働率の確保が確実なものとなるよう、入所候補者を常に５名確保できるよう入所判定委員会を実施していく。

また、入所申込者の定期的な意向確認と適宜面接を実施し公平な判定に努める

・介護面では、入居者が安心して生活していける環境を整えていくために、介護業務の効率化により利用者と接する時間を増やす、居室担当としての責任性・対応力の向上等を年度目標とした。このために業務のシステム化、業務上の役割分担の明確化、外部施設見学、研修の参加などを実施していく。

・食事サービスでは、利用者においしく、食べやすく、見た目よく満足される食事を通しての健康の維持を今年度からの新たな中長期目標とした。このため薬に頼らない排便コントロールの取り組みと、見た目をおいしく食べやすい食事形態として、軟菜食の導入を検討していく。

（2）短期入所生活介護

・安心してご利用頂けるよう、家族の信頼を維持していくことを年度の目標とした。利用者の状況が家族に正確に伝えられるようにする。また、家庭での生活状況を踏まえたケアプランを作成し、ショートスティ利用時において、ご利用者の精神的負担の軽減を図っていくこととしている。

（3）通所介護事業（総合支援事業事業通所介護サービス含む）

・経営改善のための重度者の受入の促進と、通所事業での支援が利用者個々の生活目標と一致し生き甲斐をもって在宅生活が送れるよう支援をすることを年度の目標とした。このため、必要に応じて自宅訪問での情報収集や、ご家族の介護に関する相談を受けるなどご家族との関係性の構築を図っていく。

また、全ての職種において、計画に沿ったサービスを実施し、その内容を考察し、在宅生活の継続につながるようモニタリングを行っていく

（4）認知症対応型通所介護事業

・ご利用者の生活の安定のために、通所事業での支援とご家庭での生活支援に大きな差異のないよう、家庭での支援に役立つ情報を提供し、家族との関係性の強化を図ることを年度目標とした。このため、家庭訪問やご家族の施設見学を実施する

（5）江戸川区委託事業

ア　地域包括支援センター事業

地域における生活支援の体制をさらに鞏固にすることを目標に、ネットワーク構築のための支援構成者の増加に努めていく。虐待ケース等の発見を速やかにするために気づきの視点を支援構成者らと共有していく。

イ　日常生活支援総合事業所Ｃ型

（熟年いきいきトレーニング、熟年ふれあいセンター）

委託事業廃止を見据え現利用者が現行と同様のサービスが受けられるよう区と連携し対応していく。

また、委託事業廃止を契機として、地域ニーズを踏まえた苑独自の事業の構築の可能性を検討していく。

（6）各種会議・委員会活動等

ア　品質管理室会議

・ISO 認証を 28 年度辞退したことから、品質管理会議を中間管理職（課長級職員）を中心とした会議とし、広い視野で施設の課題を抽出し、議論し苑の方向性を明らかにしていく。

さらに、議論をとおし中間管理職が苑全体の課題を把握すると同時にその解決の方向を打ち出せるよう中間管理職の育成の場としていく。

イ　防災委員会

・職員一人一人が火災時には、利用者の避難誘導を確実に行えるようにするとともに、大規模災害時は 28 年度作成した BCP に沿った行動ができるようにしていく。そのための研修を前半期に集中して実施する。

ウ　人材育成委員会

・キャリアパスに基づいた人材育成のための外部研修等の受講の充実。28 年度委員会で作成した、キャリアパスを踏まえた人事効果基準を試験的に実施し、修正と定着を図り人事考課がさらに効果的な制度となるようにしていく。

これら事業の進捗状況の確認と効果の検証のための目標管理の実施、さらにコンプライアンスの確保の視点からの内部監査を実施していく。

また、事業の適切な運営のためには、良質な人材の確保は不可欠である。介護養成校との定期的な情報交換、実習生を採用につなげるなど新たな採用ルートの確保に努めていく。

Ⅳ. 会議・委員会

1. 定例諸会議・委員会一覧

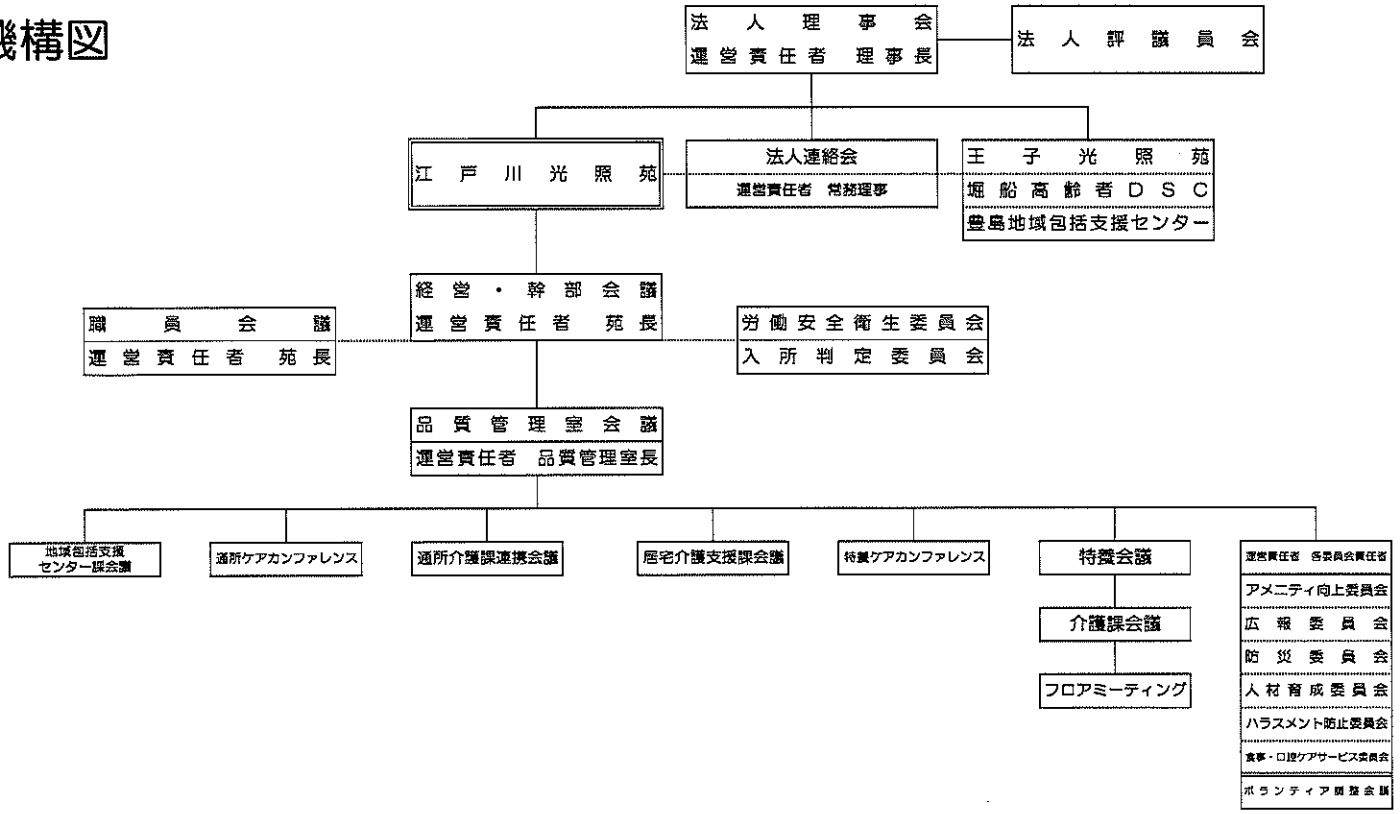
会議名	開催日	時間	参加職員
経営・幹部会議	第二金曜日	14:00～15:30	苑長・副苑長・各部長・各課長または係長
品質管理室会議	第一金曜日	14:00～15:30	苑長・副苑長・居宅サービス部長（品質管理室長） 栄養課長・看護課長・通所課長（一般・認知） 介護統括係長・相談支援課長、地域包括係長、管理課主任
部長会議	不定期	調整	苑長、副苑長、各部長
職員会議	調整	18:00～19:30	苑長・副苑長・全職員
特養ケアプランカンファレンス	原則月曜日。必要に応じ家族と調整		各セクション担当者
特養会議 （ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ含む）	第四金曜日	14:00～15:00	施設サービス部長、介護課長、統括係長、栄養課長、相談支援課長、看護課長、リハビリ課職員
介護課会議	第二金曜日	16:00～17:00	特養介護課係長、介護課主任
特養フロアミーティング	原則各フロア 月１回開催	18:00～19:00	係長以下各フロアー職員、必要に応じて　リハビリ課職員参加
通所介護課連携会議 （ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ含む）	第四金曜日	17:00～17:30	居宅サービス部長、通所介護課長、認知症通所介護課長、生活相談員、介護職員、　看護職員、リハビリ課職員
通所介護ケアカンファレンス	随時、計画表に準じて	17:20～17:40	通所介護課、リハビリテーション課職員
居宅介護支援課会議	週1回調整	調整	居宅サービス部長・居宅介護支援課長・係長
地域包括支援センター課会議	第三金曜日	16:00～17:00	地域福祉部長・地域包括支援センター課職員
ボランティア調整会議	各四半期 （7、9、11、2月） 必要に応じて	16:00～17:00	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ・各担当

委員会名	開催日	時間	参加職員
人材育成委員会	第一月曜日	16:00～17:00	人材育成委員会委員
アメニティ向上委員会	各四半期 （6、9、12、3月） 必要に応じて	16:00～17:00	アメニティ向上委員会委員
広報委員会	第一水曜日	16:00～17:00	広報委員会委員
防災委員会	第四金曜日	16:00～17:00	防災委員会委員
食事・口腔ケアサービス委員会	第一火曜日	16:00～17:00	食事・口腔ケアサービス委員会委員
ハラスメント防止委員会	隔月第二金曜日	16:00～17:00	ハラスメント委員会委員

労働安全衛生委員会	第一木曜日	15:00～16:00	労働安全衛生委員会委員
入所検討委員会	第四木曜日	15:00～16:00	苑長、相談支援課長、統括係長、看護課長、栄養課長

その他	開催日	時間	参加職員
内部監査ミーティング（開始・終了）	監査開催前後	調整	内部監査員・被監査部門代表

2. 会議機構図


法人理事会
運営責任者 理事長
法人評議員会
江戸川光照苑
法人連絡会
運営責任者 常務理事
王子光照苑
堀船高齢者ＤＳＣ
豊島地域包括支援センター
経営・幹部会議
運営責任者 苑長
職員会議
運営責任者 苑長
労働安全衛生委員会
入所判定委員会
品質管理室会議
運営責任者 品質管理室長
地域包括支援センター課会議
通所ケアカンファレンス
通所介護課連携会議
居宅介護支援課会議
特養ケアカンファレンス
特養会議
介護課会議
フロアミーティング
運営責任者 各委員会責任者
アメニティ向上委員会
広報委員会
防災委員会
人材育成委員会
ハラスメント防止委員会
食事・口腔ケアサービス委員会
ボランティア調整会議

3. 各会議・委員会の担当表

【各会議・委員会の担当表】

委員会名	委員長名	副委員長名	同担当
品質管理室会議	柴田　一佐哲	葛西　重敏	岡野　麻美　・　山内　将志　・　阿部　正人　・　清水　孝雄　・　高橋　広康　・　平島　卓 笈川　浩　・　赤岸あや子　・　増田　めぐみ　・　必要に応じて、関連部署召集
ボランティア調整会議	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ･ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが招集する		月岡　良江　・　渡辺　美代子　・　野澤　里加子　・　小倉　三枝子　・　横田　浩子
人材育成委員会 （実習生小委員会含む）	柴田　一佐哲	関根　悟	平島　卓　・　佐藤　かおり　・　網代　稔　・　志賀　翔太
労働安全衛生委員会	阿部　正人	赤岸　あや子	各部代表（桑原　幸一　・　高木　友子　・　山田　美和子）
広報委員会	柴田　一佐哲	保田　浩一郎	澤田　祐太　・　清水　孝雄　・　大山　宇　・　小泉　幸江
アメニティ向上委員会	葛西　重敏	田中　美奈	野上　千春　・　吉岡　朝典　・　山崎　公介
防災委員会	葛西　重敏	山内　将志（ｾﾝﾀｰ） 玉井　昭　（特養）	柴田　一佐哲　・　高橋　広康　・　内藤　雄子　・　清水　孝雄　・　比企野　幹子
入所検討委員会	阿部　正人	関根　悟	苑長　・　介護課職員（部長、統括、係長のいずれか）・　看護課職員　・　清水　孝雄　・　窪　和尊
食事・口腔サービス委員会	清水　孝雄	渡辺　雄士	葛西　重敏　・　柴田　一佐哲　・　看護課職員　・　浅沼　里織　・　窪　和尊　・　小野　鈴花
ハラスメント委員会	葛西　重敏	岡野　麻美	笈川　浩　・　増田　めぐみ　・　柘植　泉　・　二瓶　典子

リスクマネジメント担当	特養 施設サービス部長	介護課統括係長	事故・ヒヤリ・苦情	関根　悟　（特養）	山内　将志　（センター）
			身体拘束	阿部　正人（特養）	佐藤　かおり（センター）
			高齢者虐待	平島　卓　（特養）	野上　千春　（センター）
	センター 居宅サービス部長	通所介護課長	褥瘡	渡辺　雄士（特養）	渡辺　美代子（センター）
			感染症	赤岸　あや子（特養）	高木　友子　（センター）
			食中毒	清水　孝雄	

※必要に応じて、オブザーバーとして苑長は各会議・委員会に出席することとする。

Ⅴ．介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

１．相談支援

（１）生活相談・入所検討委員会

中長期計画	4．職員の質の向上 5．事業経営稼働率の確保

年度目標

(1) 経営効率アップのため特養の稼働率98%を目標とする。

(2) 原因不明の内出血、怪我を減少させる。

実施計画

(1) ①入所申込者の定期的な意向確認（6月、12月）の実施（入所申込者の適正な把握）
②入所候補者5名の常時確保（必要な面接の適宜実施、より公平な選定）

(2) ヒヤリハット報告を増加させ、その分析を行い、事故の再発防止につなげるための仕組みを作っていく。

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
施設介護料収入	改訂後の平成28年4月から平成28年12月までの合計額(9か月分）を算定して、それをその間の平均利用率で除した後、目標の98%を乗じて、12/9倍した。そこから処遇改善加算相当額を減じた。	¥173,388,643	介護報酬 処遇改善加算を除いた額
施設介護料収入	処遇改善加算Ⅰで算定	¥15,290,513	介護報酬 処遇改善加算
施設介護料収入	全体の目標額の1割を算出し、そこから介護職員処遇改善加算相当額を減じた。	¥15,383,121	自己負担金 処遇改善加算を除いた額
利用者等利用料収入	基準額1,380円×60×365×98.0%	¥29,617,560	食費
	（840円×58＋1150×2）×365×98.0%	¥18,249,854	居住費
	（150×60）×98.0%×365	¥3,219,300	日用品費
	30×50×98.0%×365	¥536,550	預り金管理費
	50×56×98.0%×365	¥1,073,100	おやつ代
	平成28年度と同じ数値	¥7,392	クラブ活動費 実費として別途収入を支払いにあてるもの（理美容、ホーム喫茶）は含めていない。
	90×10（台）×365×98.0%	¥321,930	ＴＶ利用料
合　　計		¥257,087,962	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
雑支出	3,000円／回×12（月）	¥36,000	入所判定委員への報酬
合　　計		¥36,000	

（2）施設サービス計画

中長期計画	3．利用者の安全性の向上 4．職員の質の向上

年度目標

(1)	関係各所の意見が反映できるように各種関係資料（ニーズ表やケースまとめ資料）の見直しを行い、個別性とサービスの質の向上が明確となるケアプランの作成を目指す。

実施計画

(1)	各種関係資料（ニーズ表やケースまとめ資料）の見直しにより、ケアプランが現場での支援・記録に連動出来るようにする。

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
雑支出	季刊購読	¥15,120	施設ケアマネ＆相談員
合　　計		¥15,120	

2．介護

（1）介護職員の育成

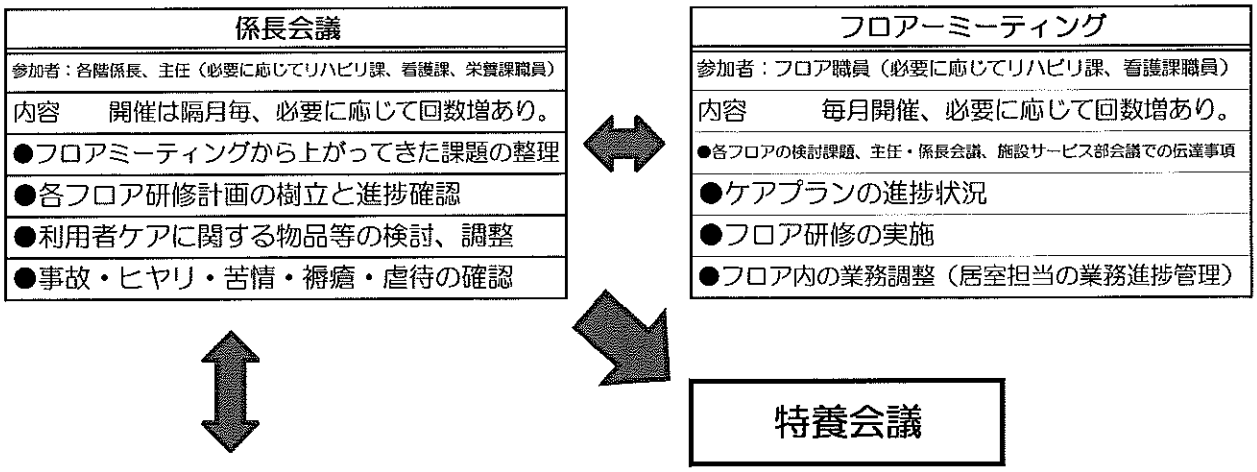
中長期計画	1.施設介護の安全性の向上。 2.職員の質の向上。

年度目標

(1)	入居者が安心して生活する環境を整える。職員が安心して働ける環境を整える。 ①介護業務の安全性と効率化により、利用者と接する時間を増やす。 ②居室担当としての教育。責任性・対応能力の向上 ③利用者の日常生活に於ける環境整備・支援の見直しと強化
(2)	福祉・施設職員としての人材育成と責任性の向上 ①他施設見学・外部研修の参加により、自施設に対しての位置付の確認及び、知識経験の向上 ②介護基礎部分の確立。介護技術、知識（医療含む）の教育と見直しと調整

実施計画

(1)	①業務の精査とシステム化。業務上での役割分担を明確化にし個人負担の軽減。 物品等の数量、期間等の把握の上、エクセル等の自動計算システムの作成と周知 ②居室担当業務の把握と教育。（年間・週・日の居室担当責任教育）利用者関係の連絡、調整。 ③介護用品、環境整備を利用者個別に合わせた調整を行う。
(2)	①外部施設見学・研修の参加。他施設の利用者との携わりを学び、利用者の生活の向上とイベント等のアイデアを吸収する。自施設の社会的位置付けを確認する。 ②周期的な、各責任者による基本介護業務関係の教育による利用者対応能力向上の確認 職員育成の段階に合わせて定期的なフロア配置変更により知識、技術の受け渡しを行っていく。



関係職務・環境物品担当者			
排泄管理	桑原幸一・杉浦友紀・芹川信一	フロアのパット表修正、必要物品の管理。毎月のパット発注のコスト管理	進捗管理統括係長
入浴管理	二瓶典子・比企野幹子・芹川信一	入浴表、ボードの見直し、必要物品の管理。行事時の入浴調整	
倉庫・物品管理	玉井昭・山崎公介・吉岡朝典	消耗品の在庫、発注、コスト管理。倉庫内の整理、整頓	
感染症管理	小野鈴花・鈴木祥未・石川幸子	感染症物品の保管、補充管理。手順書などの修正	
エアーマット、センサー管理	比企野幹子・鈴木祥未・石川幸子	エアーマット、各種センサーの使用者、保管場所の管理。修理手配	
実習管理	小野鈴花・山崎公介・志賀翔太	実習受け入れ管理。実習に関する費用（手当など）集計、管理。	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護用品費	オムツ、パット類	¥6,060,000	
消耗品費	洗剤、ゴミ袋、衛生用品、感染症対策用品等	¥1,320,000	
教養娯楽費	三大行事・季節行事等	¥506,000	
報酬費	クラブ活動講師報酬	¥550,000	音楽療法講師代
合　　計		¥8,436,000	

（2）行事スケジュール

＜3大行事＞

月	行事名（月日）	内　　容	参加者	行事担当
7月	納涼祭 7月29日（土）	隣接している保育園の園庭を借り、盆踊りを開催し、入居者や地域の方に夏の風情を楽しんでもらう。	家族・地域 予算　¥280,000 Ｖｒ	介護課/看護課/栄養課/管理課/地域連携課
9月	敬老会 9/17（日） 区長来苑/12：50~13：00	江戸川区長隣席のもと、利用者に対して畏敬の念を改めて認識するとともに利用者の長寿を願い式典を開催し、会食会でではご家族と楽しいひと時を過ごしてもらう	家族 予算　¥30,000	介護課/看護課/栄養課/、管理課
11月	江戸川光照苑祭 11月12日（日）	開かれた施設として地域住民に開放すると同時に協力と理解を求めていく。催し物や喫茶店、各種販売コーナーを設け、来客に楽しんでもらう。	家族・地域・Vr 予算　¥90,000	居宅サービス部、施設サービス部

＜季節行事＞

月	行事名（月日）	内　　容	参加者	行事担当
4月	お花見 4月1日~10日	開花時期に合わせ日程と参加者を決め、近隣の桜が綺麗に咲いている所へ散策に行く。	家族・参加費有 予算　¥5,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課
5月	端午の節句 5月5日（金）	兜やこいのぼりなどの装飾をし、端午の節句お祝いをする。	予算　¥2,000	介護課
	菖蒲湯 5月4、5、6日	菖蒲湯につかり、未病息災を願う。	予算　¥2,000	介護課
7月	七夕 7月7日（金）	願いを込めた短冊を笹に飾り、夏の風情を味わう。	予算　¥5,000	介護課
	盆供養 7月13、15、16日	故人先祖の霊を迎えると同時に、新盆の方の供養を行う。（迎え火、送り火含む）	予算　¥3,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課
8月	江戸川区花火大会鑑賞 8月5日（土）	屋上に出て夏の風物誌「江戸川花火大会」の観賞会をして楽しむ。	予算　¥5,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課
	子供神輿見学 8月20日（日）	小岩地区の子供神輿を沿道に出て見学し楽しむ。	予算　¥10,000	管理課/介護課
	天祖神社祭礼見学 8月20日（日）	北小岩天祖神社祭礼に利用者数名参加し楽しんで頂くと共に地域の交流を図る。	予算　¥5,000	相談支援課/介護課/管理課
10月	善養寺菊見学 10月中旬~11月中旬	地元地域にある菊を鑑賞することで、季節感を味わってもらう。	予算　¥5,000	相談支援課/介護課/管理課
12月	忘年会　　12月17日（日）	季節感を感じて頂くと共に、家族を招き食事会を開催する。	予算　¥10,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課
	ゆず湯 12月21、22、23日	柚子湯につかり、冬を元気に過ごせるように願う。	予算　¥2,000	介護課
1月	初詣 1月の毎週日曜日	帝釈天と近隣の神社に分かれ一年の幸せや健康を祈願する。	予算　¥10,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課
	餅つき大会 1月20日（土）	ボランティアの協力を得て餅つきを行い、利用者、地域の方々に食べてもらい健康を祝う。	予算　¥15,000	相談支援課 介護課/管理課
2月	節分 2/3（土）	保育園児に来てもらい、豆まきを行い、一年の無病息災を祈る。	予算　¥5,000	介護課 栄養課
3月	ひな祭り 3/3（土）	お雛様を飾り、季節感を味わう。	予算　¥2,000	介護課

＜個別行事＞

月	行事名（月日）	内　　容	参加者	行事担当
随時	外出支援	利用者個々の希望に沿った旅行や観劇、買い物等に付き添い、安心して外出を楽しんでもらう。費用は付添職員分を含め利用者実費負担とする。	家族・Vr参加費有 予算　¥20,000	相談支援課/介護課/看護課/栄養課/管理課

*運転、付添いなどは、管理課にも協力依頼していく。
*行事計画は2ヶ月前の15日までに会議録を作成し、20日までに広報委員会に報告する。

各行事の担当表

行事名	企画担当部署	行事担当者	行事担当	進行管理
花見	相談支援課	芹川信一	桑原幸一	統括係長
菖蒲湯	介護課	志賀翔太		統括係長
端午の節句	介護課	吉岡朝典		統括係長
菖蒲見学	介護課	比企野幹子	桑原幸一	統括係長
七夕	介護課	玉井昭		統括係長
盆供養	相談支援課	石川幸子		統括係長
納涼祭	相談支援課	鈴木祥未	澤田祐太、玉井昭、比企野幹子	統括係長
江戸川区花火大会	介護課	芹川信一		統括係長
流しそうめん	栄養課・介護課	杉浦友紀		統括係長
子ども神輿	管理課・介護課	二瓶典子		統括係長
敬老会	相談支援課	小野鈴花	芹川信一、二瓶典子	統括係長
善養寺菊見学	介護課	比企野幹子	桑原幸一	統括係長
江戸川光照苑祭	センター合同		渡辺雄士、吉岡朝典、山﨑公介	統括係長
忘年会	介護課	石川幸子	杉浦友紀	統括係長
ゆず湯	介護課	志賀翔太		統括係長
新年装飾	介護課	物品管理担当		統括係長
初詣	介護課	山﨑公介	桑原幸一	統括係長
餅つき大会	介護課	志賀翔太	玉井昭	統括係長
節分	介護課	吉岡朝典		統括係長
ひな祭り	介護課	石川幸子		統括係長
居酒屋	栄養課・介護課			統括係長

（3）クラブ活動（音楽・化粧・お花・書道）

	活動内容
音楽	音楽講師（ボランティア）の協力を得て、利用者のリクエストに応えた、歌を合唱して楽しむ。
化粧	化粧講師（ボランティア）の協力を得て参加利用者化粧を行い、楽しんで頂く。また、日常的に化粧をする習慣をつけ、ＱＯＬの向上につなげて行く。
お花	ボランティアの協力を得て、季節の花々をアレンジメントし、お花を愛でて頂く。
書道	書道を通し字を書くことの楽しさを共感して頂く。

各クラブの担当表

クラブ名	活動日	特養担当者名
書道クラブ	第2火曜	小野鈴花　山﨑公介
化粧クラブ	担当職員で調整	月岡良江　比企野幹子
音楽クラブ	第4日曜木曜	杉浦友紀　吉岡朝典
お花クラブ	第4水曜	石川幸子
リズム体操	第4月曜	当日担当者
繕い	第4木曜	鈴木祥未
音楽療法	第1・2・3月曜	桑原幸一　二瓶典子
季節行事		介護課・相談支援課

3. 看護

中長期計画	3.施設での安全性の向上。 4.職員の質の向上。

年度目標
(1) 感染症の伝播を防ぐ
(2) 誤嚥による事故、誤嚥性肺炎を極力防止する

実施計画
(1) ①都内、江戸川区内の感染症発生状況の把握 ②外部研修への参加、学習内容を感染症委員会に報告 ③年間2回の悉皆研修で理解を共通のものとする。
(2) ①介護職員全員が緊急避難としての吸引が安全確実に行える。 手技の定着のため、介護職員全員に計画的に教育する。（新入職員への指導は看護師が行う） ②連携協働の実地研修対象者への指導

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
医薬品費	¥722 x 55本	¥36,100	消毒用ｴﾀﾉｰﾙ
	¥246 x 150本	¥36,900	ﾍﾞﾝｻﾞﾙｺﾆｳﾑ液
	¥3491 x 27箱	¥87,615	ペキロン
		¥58,150	その他医薬品
衛生材料費	¥2118 x 16箱	¥33,888	栄養セット
	¥4380 x 7包	¥30,660	ガーゼ
		¥136,736	その他衛生材料
合　　計		¥420,049	

4. リハビリテーション（個別機能訓練）

中長期計画	1.腰痛を原因とした離職率を0にする。 2..施設介護の安全性の向上。 3.職員の質の向上。

年度目標
(1) 職員誰もが個々の利用者に対して適切な介護（移乗・移動・座位・立位保持等）ができる。
(2) 新たな腰痛発生者をなくす。

実施計画
(1) 個別機能訓練計画書、モニタリングをフロアミーティングの場で介護職員への周知を図る。
(2) 介護業務中の腰痛の発生を防止するため、PTによる介護方法の評価により介護方法の改善をする。

5．栄養（食事サービス・栄養ケアマネジメント・委託調理）

中長期計画	5．自然排泄を促すための献立作り 6．利用者においしく、食べやすく、見た目よく栄養が満足される食事の提供と食を通しての健康の維持

年度目標

(1) 薬に頼らない食事による排便コントロールの取り組みと軟菜食の導入

(2) 利用者が満足する食事を行うために委託業者との連携と指導を強化する。

実施計画

(1) 排便コントロール実施スケジュール
①施設見学　②排泄委員会（食事・口腔ケアサービス委員会メンバー）　③対象利用者の選定
④評価方法の確立

(2) 軟菜食導入実施スケジュール
①サンプル献立作成（4月末）　②食事形態の決定　③食品の決定（5月末）　④軟菜食開始（6月末）

(3) 委託側と連携し利用者の食べやすさ、嗜好に合ったよりよい食事の提供(技術面、食材の選択など)を行う。
①郷土料理、変わりご飯、赤飯は定期的に入れる。
②刺身の日・リクエスト食もそのままで、
③刺身のスタイルはちらしずし、にぎり、丼物も入れていく。
④イベント食の具体的な実施。
⑤食事提供に関するアンケートを9月に実施する。

	予定	居酒屋	刺身の日・リクエスト食	駅弁・季節の献立	赤飯と変わりご飯	嗜好調査	害虫駆除
4月			4月と11月～3月迄が月1回刺身の日、5月～10月迄が月1回リクエスト食を実施。	季節の献立、郷土料理のどれかを月に1回以上実施	月に1回実施		
5月							
6月		○					○
7月							
8月	流しそうめん						
9月	長寿を祝う集い会食						○
10月						○	
11月							
12月	クリスマス忘年会						○
1月	もちつき						
2月		○					
3月							○

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護報酬収入	12単位×30日×12か月×58人	¥2,505,600	栄養ケアマネジメント
介護報酬収入	500単位×12か月×4人	¥24,000	経口維持加算ⅠとⅡ
合　計		¥2,529,600	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
給食費	175000×12か月	¥2,100,000	給食材料（栄養補助）
給食費	33000×12か月	¥396,000	給食材料（経管栄養）
給食費	220円×125人×年2回	¥55,000	行事食加算
給食費	行事3回＋納涼祭＋居酒屋2回＋正月	¥100,000	ビール・ジュース代
保健衛生費		¥100,000	害虫駆除
合　計		¥2,751,000	

6．家族会

年度目標
(1) 新たな家族会と施設との関係の構築
実施計画
(1) 役員会を開催し、家族の抱える問題、施設への要望を明確にしていく。
(2) 家族会費の使途の検討（加入対象者は入所者の８割程度）

日　程	活　　動	備　考（内容など）
4月15日	家族会費納入のお知らせ	定期の郵送物とともに発送
4月30日	会計報告書作成	
6月	第１回家族会総会	28年度事業報告・決算報告。29年度事業計画、事業予算。意見交換。
3月	第２回家族会	

<今年度予算>収入の部

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
会費	家族会費×50	¥200,000	
合　　計		¥200,000	

<今年度予算>支出の部

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
	敬老会プレゼント代(共用できるもの)	¥60,000	
	正月用門松購入用	¥40,000	
	誕生日用プレゼント(70人分)	¥70,000	
	クリスマス用プレゼント(60人分)	¥30,000	
合　　計		¥200,000	

Ⅵ. 短期入所生活介護事業

中長期計画	1．緊急短期入所の100%受入をめざす。 2．ＡＤＬ、ＩＡＤＬの維持・向上のための機能訓練の確立。

年度目標
(1) 家族の信頼を維持していく。
(2) 利用者のＩＡＤＬへの支援を行い、利用者満足に繋げる。

実施計画
(1) 短期入所生活介護中の衣類などの持ち物の紛失を失くす。手段として書類の整備やチャック方法の検討を行う。紛失物が見つからない場合の対応について期限を決めて家族へ報告・対応をする。
(2) 利用者の状況が家族に伝えられるように記録の仕方を検討する。それを踏まえて家庭での状況を表現したケアプランを作成する。

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
居宅介護料収入	改訂後の平成28年4月から平成28年9月までの合計額(6か月分）を算定して、それをその間の平均利用率で除した後、目標の95%を乗じて、12/6倍した。そこから処遇改善加算相当額を減じた。	¥26,073,711	介護報酬
処遇改善加算	介護報酬と1割負担分の各々の目標値の0.081倍したものを合算した。	¥2,359,556	介護報酬 処遇改善加算
居宅介護料収入自己負担分	平成28年4月から28年9月までの実績を参考に算出した。	¥3,056,614	利用者負担金
利用者等利用料収入	平成28年4月から28年9月までの実績を参考に算出した。	¥6,030,969	食費
	平成28年4月から28年9月までの実績を参考に算出した。	¥4,655,116	居住費
	前年度の値を参考にした	¥605,532	日用品費
	前年度の値を参考にした	¥151,921	おやつ代
	前年度の値を参考にした	¥110,185	ＴＶ利用料
合　　計		¥43,043,605	

Ⅶ. 居宅介護支援事業

中長期計画	居宅介護支援課内での情報共有のルールの構築・計画的な内部研修の定着

年度目標
(1) 個々のケースの実情に基づいた支援計画の樹立と計画の適切な理解が得られる説明ができるケアマネジャーの育成
(2) 特定事業所加算の継続

実施計画
(1) 支援計画樹立に当たって、実情が反映できるよう、アセスメントシートの見直し、作成を行う。
(2) 研修生の受け入れと研修の効果を確実なものとするためにその方法論など、他事業所の研修方法と情報を集める。

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
居宅介護支援介護料収入	¥11,878×1,008人	¥11,973,024	要介護1.2
	¥15,424×432人	¥6,663,168	要介護3.4.5
	¥4,412×24人	¥105,888	要支援1.2
	¥4,412×24人	¥105,880	事業対象者
	¥3,420×15人	¥51,300	初回加算
	¥4,560×1,440人	¥6,566,400	特定事業所加算
合　　計		¥25,465,660	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
事務消耗品		¥20,000	事務用品購入
雑支出		¥30,000	資料、書籍
合　　計		¥50,000	

Ⅷ. 通所介護事業及び総合支援事業通所介護サービス

中長期計画	1．平均要介護度1.78（平成２７年１月現在）を平成２９年度に平均要介護度3に引き上げる。 2．利用者の生活行為向上のためのプロセスの共有と職種間の役割の明確化 3．利用者の栄養改善支援の確立による在宅生活継続支援

年度目標
(1) 利用者個々の生活目標と通所介護計画を一致させ、その実現を目指す
(2) 居宅介護支援事業所との双方向の情報共有をすることで重度者受け入れの促進を図る

実施計画		
相談	①	計画の見直しの時期だけでなく、必要に応じて自宅に訪問し情報を収集する。ご家族との関係性の構築の為に年２回、見学会を開き、ご家族様の介護に関する相談や要望を聞きとる。
	②	利用者の生活上の困難な場面を改善し、そのうえで在宅での生活の安定や継続を図ることを目的とした通所介護計画を立案し、実施、評価を行う。
	③	要介護重度利用者（平均要介護３を目指す）の受入のために、居宅介護支援事業所が必要とする情報の整理を行い、デイサービスの情報の整理と提供を行う。
介護	①	立案した通所介護計画に沿ったサービス内容と生活上の援助を確実に実施し、実施内容から在宅での生活の安定や継続に繋がる考察をモニタリングし、記録する。
	②	ご利用者の希望に沿ったクラブ活動、行事を実施する。
看護	①	立案した通所介護計画に沿ったサービス内容と生活上の援助を確実に実施し、実施内容から在宅での生活の安定や継続に繋がる考察をモニタリングし、記録する。
	②	看護に必要な物品・機器を一覧化し、必要数量、残数、機器の故障時期、確認頻度等を明確にした上で、購入・修繕依頼を行い、他職種もわかる形で管理する。
リハ	①	立案した通所介護計画及び機能訓練計画に沿ったサービス内容と生活上の援助を確実に実施し、実施内容から在宅での生活の安定や継続に繋がる考察をモニタリングし、記録する。
	②	他職種と連携し、3ヶ月ごとの訪問を実施し、利用者のニーズに即した機能訓練計画を立案し、実施し、評価する。
栄養	①	委託会社と連携し利用者の食べやすさや嗜好に合った、よりよい食事の提供(技術面、食材面の質の向上)
	②	利用者の栄養改善が必要な場合、介護、看護と連携をとり利用者や家族に適切な情報提供をしていく(栄養状態の把握、問題点の明確化、栄養改善の実施)

＜季節行事＞

4月	花祭り	お釈迦様の誕生を祝う。	渡邊・小泉
5月	端午の節句・母の日	入浴利用の方に菖蒲湯を楽しんでいただく。また、女性ご利用者さんに手作りカードのプレゼントを行い日頃の感謝の気持ちを伝える。	渡邊・小泉
6月	父の日	男性ご利用者に手作りカードをプレゼントを行い日頃の感謝の気持ちを伝える。	渡邊・小泉
7月	七夕	短冊に願い事を書き笹に取りつける。	渡邊・小泉
8月	夏祭り	屋台縁日で夏の雰囲気を感じていただく。	渡邊・小泉
9月	長寿のお祝い＆五穀豊穣	敬老の日に合わせご利用者に長寿のお祝いをする。五穀豊穣で一年の豊穣を祈りましょう。	渡邊・小泉
10月	ミニ運動会	スポーツの秋にちなんで、ホールで思いっきり身体を動かしましょう！	渡邊・小泉
11月	作品作り	芸術の秋にちなんで、作品を作り光照苑祭に展示する。	渡邊・小泉
12月	お楽しみ会	ビンゴゲームとおやつはケーキで楽しい時間を過ごそう！	渡邊・小泉
1月	初詣	新年の祝いと１年の健康と幸せを祈る。	渡邊・小泉
2月	節分	鬼は外！福は内！で邪気を払いましょう	渡邊・小泉
3月	ひな祭り	甘酒と和菓子でひな祭りを楽しみましょう	渡邊・小泉

＜活動計画＞

各クラブ活動	頭の健康体操クラブ	毎月発行月刊デイの中から提供	渡辺美・野上
	クラフトクラブ	毎月発行月刊デイの中から提供	渡辺美・野上
	手芸クラブ	毎月発行月刊デイの中から提供	渡辺美・野上
	絵手紙クラブ	毎月発行月刊デイの中から提供	渡辺美・野上
	囲碁・将棋クラブ	毎月発行月刊デイの中から提供	渡辺美・野上
	カラオケクラブ	各ご利用者からのリクエストで実施	渡辺美・野上
そのほか	苑外活動	5月（バラ）　9月（ぶどう狩り）　11月（菊）　1月（初詣）　2月（買い物ツ	渡辺美・野上
	個人製作	カード作り・七夕飾り・リボン編み・コサージュ・ストラップ	渡辺美・野上
	共同製作	フロアーとホールの装飾作り（毎月）	渡辺美・野上
	レクリエーション	ホールで思いっきり身体を動かそう！	渡辺美・野上
	おやつ作り	4月　9月　１２月　3月	渡辺美・野上
	定例活動	花祭り　誕生日会　学習療法　音楽療法 音楽クラブ　リズム体操	渡辺美・野上

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
居宅介護料収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥51,407,735	居宅介護
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥1,683,396	入浴加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥1,236,060	ｻｰﾋﾞｽ提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥3,158,820	機能訓練加算（Ⅰ）
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥1,582,156	機能訓練加算（Ⅱ）
		¥3,485,022	介護職員処遇改善加算
介護予防・日常生活支援総合事業収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥3,764,979	予防居宅介護
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥107,361	ｻｰﾋﾞｽ提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥370,818	運動器機能向上加算
		¥250,346	介護職員処遇改善加算
利用者負担金収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.9	¥6,950,354	居宅介護
総合事業利用者負担金収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.9	¥499,278	予防居宅介護
利用者利用料収入	延べ人数×0.9×¥600	¥4,621,200	利用者食事負担
	延べ人数×0.9×¥100	¥770,200	活動費
合　　計		¥79,887,725	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
教養娯楽費		¥900,000	音楽療法
			学習療法
			各種クラブ活動
介護用品費		¥560,000	浴用タオル
			浴用バスタオル
			タオルケット
			清拭タオル
			ウェットおしぼり
消耗品費		¥60,000	デイスポ等
医薬品費		¥10,000	軟膏等
合　　計		¥1,530,000	

Ⅸ. 認知症型通所介護事業

中長期計画	施設のノウハウを家族に提供し、在宅生活の安定した継続支援の確立。 利用者家族との関係性の強化と顔の見える関係作りを構築する。

年度目標

(1) 家庭での支援に役立つ情報を提供し、家族との関係性の強化を図る。

実施計画

相談	①	情報シートの作成と家族への提供 半年に一度の家庭訪問による日常生活の把握をし、それを基に支援方法を記載した情報シートを作成し、家族に提供する。
	②	家族がデイサービスの様子を見学できる機会を作る。各曜日に設定することで参加しやすい環境を作る。
介護	①	デイ利用中に気付いた心身の変化やご利用の様子を家族にお伝えする。また、その情報を半年ごとのモニタリング、情報シートに活用する。
	②	レクリエーション活動費を適切に管理し、それに応じた備品や活動、製作物として還元する
看護	①	デイ利用中に気付いた心身の変化やご利用の様子を家族にお伝えする。また、その情報を半年ごとのモニタリング、情報シートに活用する。
	②	看護に必要な物品・機器を一覧化し、必要数量、残数、機器の故障時期、確認頻度等を明確にした上で、購入・修繕依頼を行い、他職種もわかる形で管理する。
リハ	①	ご家族に対して、利用者個々の家庭での支援に役立つ情報を提供するために、デイ利用中に気付いた心身の変化やご利用の様子に加え、在宅生活上の援助やアドバイス（介護用品や介助方法など）も家族にお伝えする。また、その情報をご家族よりフィードバックした上で半年ごとのモニタリング、情報シートに活用する。
栄養	①	委託会社と連携し利用者の食べやすさや嗜好に合った、よりよい食事の提供(技術面、食材面の質の向上)
	②	利用者の栄養改善が必要な場合、介護、看護と連携をとり利用者や家族に適切な情報提供をしていく(栄養状態の把握、問題点の明確化、栄養改善の実施)

＜情報発信計画＞

4月	職員紹介	介護
5月	家庭でできる体操①	リハビリ
6月	脱水	看護
7月	食中毒	栄養
8月	認知症	介護
9月	家庭でできる体操②	リハビリ
10月		栄養

11月	感染性胃腸炎	看護
12月	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	看護
1月	認知症	介護
2月	家庭でできる体操③	リハビリ
3月		栄養

＜季節行事計画＞

4月	花祭り	お釈迦様の誕生を祝う。	佐藤・浅沼
	桜見学	桜の花を観賞し季節を感じて頂く	
5月	端午の節句	入浴利用の方に菖蒲湯を楽しんでいただく。	佐藤・浅沼
	母の日	女性ご利用者に手作りカードをプレゼントする。	
6月	父の日	男性ご利用者に手作りカードをプレゼントする。	佐藤・浅沼
7月	七夕	短冊に願い事を書き笹に取りつける。	佐藤・浅沼
8月	夏祭り	屋台縁日で夏の雰囲気を感じていただく。	佐藤・浅沼
9月	長寿のお祝い	敬老の日に合わせご利用者さんの長寿のお祝いをする。	佐藤・浅沼
	お月見	五穀豊穣を祈る。	
10月	ミニ運動会	スポーツの秋。ホールで身体を動かしましょう！	佐藤・浅沼
11月	作品作り	芸術の秋にちなんで、作品を作り光照苑祭に展示する。	佐藤・浅沼
12月	お楽しみ会	ビンゴゲームとおやつはケーキで楽しい時間を過ごそう！	佐藤・浅沼
1月	初詣	新年の祝いと１年の健康と幸せを祈る。	佐藤・浅沼
2月	節分	鬼は外！福は内！で邪気を払いましょう	佐藤・浅沼
3月	ひな祭り	甘酒と和菓子でひな祭りを楽しみましょう	佐藤・浅沼

＜レクリエーション活動計画＞

①	音楽療法	毎月第一水曜日、第二木曜日、第三金曜日	佐藤・野澤
②	おやつ作り	4月.5月.10月.11月.2月.	佐藤・野澤
③	共同製作	桜、兜と菖蒲、紫陽花、ひまわり、コスモス、万国旗、すすき、クリスマス、正月、ひな祭り	佐藤・野澤
④	アロマ	毎日状況に応じて用意	佐藤・野澤
⑤	個人製作	てるてる坊主、短冊、リース,カレンダー等	佐藤・野澤
⑥	園芸	園芸用土、季節の花や野菜の種と苗	佐藤・野澤
⑦	ドール	セラピー用の人形(１体)	佐藤・野澤
⑧	CD・DVD	民謡、娯楽系	佐藤・野澤
⑨	写真代	活動の様子を伝える写真を配布	佐藤・野澤
⑩	誕生会	一人100円×30人分	佐藤・野澤

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
地域密着型介護料収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.8	¥30,845,124	居宅介護
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.8	¥874,125	入浴加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.8	¥467,532	ｻｰﾋﾞｽ提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.8	¥701,298	機能訓練加算
		¥3,420,360	介護職員処遇改善加算
利用者負担金収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.8	¥4,034,271	自己負担金
利用者等利用料収入	延人数×0.8×600	¥1,797,000	利用者食事負担
	延人数×0.8×100	¥299,500	レクリエーション費
合　　計		¥42,439,210	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
教養娯楽費		¥750,000	音楽療法等
介護用品費		¥280,000	浴用タオル
			浴用バスタオル
			タオルケット
			清拭タオル
			ウェットおしぼり
医薬品費		¥10,000	
消耗品費		¥50,000	
合　　計		¥1,090,000	

X. 江戸川区委託事業

1. 地域包括支援センター事業（熟年相談室）

中長期目標	本室と分室との連携体制を確立すると共に、地域の特性に則した形での地域活動を充実させ推進する。

年度目標

(1) 地域における生活支援の体制を築く

実施計画

(1) 高齢者虐待ケースや見守りケースの発見を速やかに行うために支援構成者を増やしていく。
支援構成者とのネットワークを構築し、気付きの視点を共有する
・個人を含め対象機関、対象団体などを決め具体的な働きかけの方法（内容、手段）を決める。

スケジュール

5月　西小岩まつり
6月　小岩菖蒲園まつり
7月　小岩第4地区民生児童委員との懇談会
11月　地域連携会議
(1) 2月　小岩第2地区民生児童委員との懇談会
未定　事業者間情報交換会（江戸川区全域　1回、小岩地区　2回）
地域活動　5月末までに対象機関、対象団体など選定
7月末までに具体的な働きかけの方法を決める
8月から地域活動として実施し、実施後に反応を整理し修正を行う

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
受託事業収入	¥54,000×6回	¥324,000	介護予防教室
	¥1,000×5回×12ヶ月	¥60,000	地域力向上経費
	¥1,400,000×12ヶ月	¥16,800,000	総合相談支援経費
	¥30,000×2回	¥60,000	民生委員懇談会
	¥100,000×12ヶ月	¥1,200,000	権利擁護対応支援
	¥110,000×12ヶ月	¥1,320,000	ケアマネジメント支援
	¥7,000×2件	¥14,000	地域ケア会議
	¥150,000×1回	¥150,000	地域連携会議
	¥30,000×3回	¥90,000	事業者情報交換会
	¥50,000×2回	¥100,000	地域まつり
	¥5000×25回+¥3,000×30回	¥215,000	地域活動
	¥95,000×12ヶ月	¥1,140,000	任意事業費
	¥800×60件×12ヶ月	¥576,000	事業者関係事務費
	¥4,200×5件	¥21,000	認定調査
	¥2,000×15件	¥30,000	住宅改修
	¥105×1件	¥105	保険料徴収
	¥1,200,000×1回	¥1,200,000	相談受付件数加算
	¥57,000×12ヶ月	¥684,000	分室賃料助成
	¥200,000×12ヶ月	¥2,400,000	地域連携調整事業経費
	¥400,000×12ヶ月	¥4,800,000	認知症地域支援推進員
合　　計		¥31,184,105	

〈今年度予算〉（収入の部：地域包括支援センター　総合事業）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護予防・日常生活支援総合事業収入	¥8,322×20名	¥166,440	要支援認定新規
	¥4,902×140名×12ヶ月	¥8,235,360	要支援認定継続
	¥8,322×20名	¥166,440	事業対象者新規
	¥4,902×95名×12か月	¥5,588,280	事業対象者継続
	¥4,560×8名×3か月	¥109,440	事業対象者継続
合　　計		¥14,265,960	

〈今年度予算〉（支出の部：地域包括支援センター）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
旅費交通費	¥3,000×5名	¥15,000	地域活動、研修等
賃借料	¥114、000×12ヶ月	¥1,368,000	西小岩分室賃料
雑支出	¥5,000×12回	¥60,000	介護者交流会
	¥2000×6回＋¥30000	¥42,000	介護予防教室
	¥8,000×2回	¥16,000	民生委員懇談会
		¥15,000	地域活動
	¥20,000×1回＋¥5,000	¥25,000	地域連携会議
研修研究費	¥10,000×7名	¥70,000	
委託費	¥7,490×15名＋¥4,412×67名×12ヶ月	¥3,659,598	介護予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委託
合　　計		¥5,270,598	

〈今年度予算〉（収入の部：指定介護予防支援事業所）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
居宅介護支援介護料	¥8,322×5名	¥41,610	新規
	¥4,902×70名×12ヶ月	¥4,117,680	継続
合　　計		¥4,159,290	

〈今年度予算〉（支出の部：指定介護予防支援事業所）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
委託費	¥7,490×3名＋¥4,412×39名×12ヶ月	¥2,154,696	介護予防給付委託
合　　計		¥2,154,696	

年間活動予定

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主任ケアマネ部会							○					○	第3金曜日
保健師部会			○			○		○			○		第3水曜日
社会福祉士部会		○		○		○		○			○		第3火曜日
地域包括実務担当者会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第１木曜日
虐待事例検討会											○		
介護者交流会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第3金曜日
介護予防教室		○	○	○		○	○	○					
民生委員懇談会				○							○		
運営推進会議													
GH運営推進会議		○		○		○		○		○		○	第4金曜日
小岩地区包括会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第2月曜日
地域連携会議								○					
地域ケア会議													状況により変動
地域まつり		○	○										西小岩・菖蒲園
サービス事業者情報交換会						○			○		○		

2．熟年いきいきトレーニング（日常生活支援総合事業通所C型）

中長期計画	介護予防・日常生活支援総合事業の導入にあたり現行の二次予防事業に相当する通所型サービスCを実施する。

年度目標

(1)	・30年度の委託事業廃止を見据え、現利用者の円滑なサービスの移行を図る。 （光照苑で同様の事業継続の検討も含む）

実施計画

(1)	・H29年度の委託事業最終日まで、確実かつ安定した運動提供を行い利用率を維持する。
(2)	社会貢献を視野に、光照苑としての独自事業のあり方を検討する。 （内容・場所・対象者・収支）

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護予防・日常生活支援総合事業収入	¥3,500×11×291×0.9	¥13,749,750	受託事業収入
利用者等利用料収入	¥6,000×291×0.9	¥1,571,400	送迎費
	¥200×11×291×0.9	¥785,700	利用者負担分
合　　計		¥16,106,850	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
消耗備品費	¥30,000	¥30,000	トレーニング備品
	¥50,000	¥50,000	リハビリ室環境整備
教養娯楽費	¥5,000×6回	¥30,000	嗜好品費
	¥50×600枚	¥30,000	通信費
合　　計		¥140,000	

3．熟年ふれあいセンター（日常生活支援総合事業通所C型）

中長期計画	介護予防・生活支援サービス事業に於いて、利用者のニーズに応えられるよう、生活支援などの多様なサービスが提供されるよう支援する。

年度目標

（1）30年度の委託事業廃止を見据え、現利用者の円滑なサービスの意向を図る。
（光照苑で同様の事業継続も含む）

実施計画

（1）H29年度の委託事業最終日まで、活動の充実した内容を考案する。

（2）社会貢献を視野に、光照苑としての独自事業のあり方を検討する。
（内容・場所・対象者・収支）

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護予防・日常生活支援総合事業収入	￥２８００×１４０人×１２回	¥4,704,000	受託事業収入
	￥１５１０００×3回×１２	¥5,436,000	受託事業収入
	￥３００×１２名×１４５回	¥522,000	利用者自己負担分
利用者等利用料収入	￥４００×１２名×１３３回	¥638,400	食費
合　　計		¥11,300,400	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
医薬品費	¥20,000	¥10,000	
消耗品費	¥10,000	¥20,000	血圧計・体温計
教養娯楽費	¥80,000	¥80,000	活動材料費
合　　計		¥110,000	

4．虚弱者向け配食サービス（高齢者の支援）

中長期目標	総合事業の情報を収集し、江戸川区の動向を踏まえ、地域のニーズを把握していく

年度目標

（1） 配食サービスの充実拡大及びさらに喜ばれる配食サービスを目指す。

（2） 社会福祉法人としての社会貢献の在り方を踏まえ、地域社会に求められる配食サービスを検討、構築する。

実施計画

（1） アンケートの実施
前年度の設問内容の見直しを行い、7月に配布し、8月に統計し、課題抽出し、改善していく。
摂食状況が悪い利用者など必要に応じ、当苑の管理栄養士と同行し、栄養改善のアドバイスを行う。

（2） 配食ニーズ把握のため、居宅介護支援事業所や医療機関と連携する。
居宅介護支援事業所と医療機関への試食会を開催する。

	アンケート		訪問試食会		活動予定概要	チラシ配布
	実施	報告	実施	報告		
4月						
5月						
6月						食中毒注意
7月	○					アンケート配布
8月		○				
9月						試食会の案内配布
10月			○		試食会の実施	
11月			○			
12月				○		ノロウィルス注意
1月						
2月						
3月						

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
介護予防・日常生活支援総合事業収入	¥200×60食×296日	¥3,552,000	平日配食分
	¥200×20食×66日	¥264,000	日祝日配食分（1/1～1/3除く）
	¥46,800×12ヶ月	¥561,600	配食サービス事業経費
その他利用料収入	¥600×60食×296日	¥10,656,000	食費平日配食分
	¥600×20食×66日	¥792,000	食費日祝日配食分
合　計		¥15,825,600	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
給食材料費	¥342×60食×296日+¥342×20食×66日	¥6,525,360	利用者
広報費	カラー用（両面刷り） 60部（新規用）＋50部（資料用）＋ 60部（ストック用）×¥30	¥5,100	パンフレット
消耗品費	¥275（1箱50枚）×6ヶ月	¥10,000	ﾏｽｸ･ﾃﾞｨｽﾎﾟ･消臭ｽﾌﾟﾚｰ等
車両費	¥7,853×2台×12ヶ月	¥188,472	ガソリン代
	¥57,230×2台	¥114,460	保険料
	¥37,000×2台	¥74,000	定期点検
	¥115,000×2台	¥230,000	車検等
賃借料	¥16,000×2台×12ヶ月	¥384,000	駐車料金
合　計		¥7,531,392	

Ⅺ. 各事業共通項目

1．品質管理

（1）品質管理室

中長期計画	（平成２６年度からの中長期計画完了を踏まえて変更） ＩＳＯ認証辞退に伴い、品質管理室会議の役割と目的の明確化。

年度目標

(1)	各業務に精通した中間管理職（課長級）を中心とした会議としての位置づけを、参加者に理解させ、広い視野で施設の課題を抽出、議論し、苑の方向性を明らかにしていく。
(2)	品質管理室会議の進行の中で、苑全体を見渡せる中間管理職の育成を図る。

実施計画

(1)	品質管理室会議で各会議、委員会の進捗状況確認と課題抽出をし、改善の流れの状況を確認できるようにする。
(2)	品質管理室会議の準備段階で各中間管理職は自部署の課題を抽出し、資料提示をする。 会議の進行を持ち回りで行い、苑全体の状況を把握し、課題解決を確実に行う。

（2）経営幹部会議/職員会議

年度目標

(1)	経営幹部会議 苑内の経営課題やリスクを明確化し、情報共有と適切にマネジメントするために幹部層による最高決定機関として経営幹部会議を設置、運営する。
(2)	職員会議 苑内の経営課題やリスクなどその解決策を明確化し、適切に職員に伝達し、情報共有を図るために全職員を対象とし、職員会議を設置、運営する。

実施計画

(1)	品質管理室会議で抽出された課題の解決策や苑の方向性の議論を深め決定する。
(2)	①４月、１０月実施（その他必要に応じて実施） ②全職員参加を確実にする方策の検討

（3）目標管理

実施計画

(1)	各事業において、事業計画策定時に設定した目標について検証を行い次期の事業活動に反映させる。

日　付	内　　容
４月	目標管理事項および検証内容の確定
７月	課題分析
９月	財務分析（前年度実績対比、予算対比）および前回課題進捗状況、次期に向けての課題分析
１１月	前回課題進捗状況、次期に向けての課題抽出
１月	実績を踏まえての翌年度事業計画検討
３月	年度実績に反省・事業報告検討

（4）内部監査

実施計画	
(1) 品質管理室会議で抽出された課題を中心に監査項目とし、業務の改善を行う。	
(2) 品質管理室会議に参加する中間管理職（課長級）を内部監査員とし、自部署のみでなく他部署を監査することにより、施設全体の課題を把握し、業務改善の提案ができるようにする。	
内部監査	平成29年10月中旬実施
【対象部署】 ①管理課　②相談支援課　③介護課　④看護課　⑤リハビリテーション課　⑥品質管理室 ⑦通所介護課　⑧居宅介護支援課　⑨地域包括支援センター課（分室含む）　⑩栄養課	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	摘　要	積　算　内　訳	予　算　額	備　考
雑支出	第三者評価受審費	3事業所（特養、通所、居宅）	¥1,000,000	
合　計			¥1,000,000	

2．管理部

（1）地域福祉活動計画・地域行事

年度目標	
年度目標	円滑な地域との協力関係を保つ

実施計画
（1）開かれた施設であることを地域へ発信することと施設内設備が有効活用できる方策を模索し検討していく。
（2）地域行事への参加協力を通じて、地域ニーズを探り、社会貢献となるべき課題を模索し新たな事業の再構築を検討する。

地域行事計画等

月	地　域　行　事	施設年間計画	備　考
毎月	近隣地域の清掃活動	事業者間情報交換会 （江戸川区1回、小岩地区2回） 介護者交流会	
4月	小岩三中入学式	花見見物	
5月	区内一斉美化運動 地域防災会議	西小岩まつり　バラ園見学	
6月	小岩菖蒲園まつり	小岩菖蒲園まつり参加 菖蒲見学	
7月	江戸川区防災訓練、各町会自治会祭礼	小岩第4地区民生児童委員懇談会	
8月	各町会自治会祭礼 （北小岩6町会・西小岩8町会） 地域防災会議	納涼祭・デイ夏祭り・江戸川区花火大会	
9月		笑顔いっぱい長寿の集い ぶどう狩り体験　五穀豊穣祭	
10月	江戸川区民まつり・ 北小岩地区・西小岩地区区民運動会	菊見学　ミニ運動会	
11月	北小岩まつり・区内一斉美化運動 地域防災会議・総合芸能祭	光照苑祭・菊見学	
12月	防災訓練　富士見保育園降誕劇	利用者家族忘年会会食	
1月	餅つき大会	初詣・餅つき大会	
2月	初午祭・北小岩地区総合防災訓練 地域防災会議	節分豆まき　買い物ツアー 小岩第2地区民生児童委員懇談会	熟年者施設職員の集い
3月	北小岩保育園卒園式　小岩三中卒業式	特養家族会　ひな祭り	

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	摘　要	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
雑支出	寄付	町会祭礼への寄付 （北小岩6町会　西小岩8町会）	¥75,000	地元町会のみ1万円
	寄付	北小岩まつり・西小岩まつり	¥15,000	地元町会のみ1万円
	寄付	北小岩地区運動会　西小岩地区運動会	¥15,000	地元町会のみ1万円
合　　計			¥105,000	

地域開放への展開（障害者就労支援の一環として）
-江戸川光照苑・マルシェ開催-（毎月1回　木曜日開催予定）
「江戸川区障害者就労支援センター」・「東京光の村授産学園」・「元明館」 他　共同による実施
・障害者通所施設での作品の販売
・江戸川光照苑は場所の提供

（2）インフラストラクチャー

中長期計画	確実な執行体制と設備・備品の購入計画の樹立

年度目標

(1)	老朽化への対応や安全で快適な住環境を目指すことを目標とする。また各部署からの気づき要望に対しては、執行予算との兼ね合いを勘案し、計画的な執行を実現していく。
(2)	各事業所より提出された修繕・備品購入・固定資産購入については、事業担当者や事業責任者と優先順位を確定し、より効率的な執行管理を行う。

実施計画

(1)	各現場より要請のあった設備管理・修繕・備品等の購入依頼については、全部署共有のフォルダに「H29依頼品管理表」・及び「H29進捗管理表」を置くこととし、全部署で誰もが進捗把握ができるように開示し、迅速で効率的な進捗管理をおこなう。

科　目	摘　要	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
消耗器具備品費	特養	一般用車いす	150,000	
消耗器具備品費	特養	感染対策用バイタル計測機(体温計＋血圧	40,000	
消耗器具備品費	特養	2F　冷蔵庫	80,000	
消耗器具備品費	特養	脱衣場用の長椅子	50,000	
消耗器具備品費	通所	デジカメ	15,000	
消耗器具備品費	通所	オーバーテーブル　2台	40,000	
消耗器具備品費	全体	女子ロッカー　3台	60,000	
消耗器具備品費	全体	通常購入品	5,300,000	
消耗器具備品費	全体	会議用テーブル 10台	250,000	
消耗器具備品費			5,985,000	
修繕費	特養	3F　食堂流し台	200,000	

修繕費	特養	居室洗面台の水圧調整とお湯温度調整(5室	100,000	
修繕費	特養	一般浴脱衣所の段差解消	100,000	
修繕費	特養	居室4室 トイレアコーデオンカーテン改修	300,000	
修繕費	通所	シャワーの水圧・ノズル修繕	30,000	
修繕費	特養	汚物除去機修理	340,000	
修繕費	全体	冷却塔薬洗・Vベルト交換	730,000	
修繕費	全体	加圧給水ポンプ(オーバーオール)	650,000	
修繕費	全体	ヒートポンプメンテナンス(室内外機フィン洗	250,000	
修繕費	特養	高圧洗浄清掃(水回り) 特養のみ	700,000	
修繕費	全体	防炎窓調整フック交換工事 5箇所分	400,000	
修繕費	全体	特養 貯水槽FRP部塗装洗浄	350,000	
修繕費	全体	非常用発電機改修工事	800,000	
修繕費	全体	温水パネルヒーターの修繕 特養3階のみ	300,000	
修繕費	全体	キュービクル設備内交換修理工事	700,000	
修繕費	全体	在宅棟2階引き戸交換工事	200,000	
修繕費	全体	センター棟南側階段 雨漏り修繕調査	500,000	
修繕費	全体	ひだまーる環境整備	100,000	
修繕費			6,750,000	
固定資産	特養	リクライニング車いす	240,000	
固定資産	通所	温冷配膳車 センター分 1台	1,000,000	
固定資産	通所	くつろぎ アコーデオンカーテン仕切り設置	200,000	
固定資産	全体	非常用放送設備 入替設置	4,800,000	
固定資産	全体	ひだまーる設置倉庫	300,000	
固定資産			6,540,000	
ファイナンスリース債務	全体	介護ソフト入替導入の検討(6か月相当分)	820,000	総額12,000,000円のうち 5年償却とし
ファイナンスリース債務	全体	電話機・テレビリース料	1,200,000	
ファイナンスリース債務			2,020,000	
事務費賃借料	全体	PCサーバー(特養2階ファイルサーバーネットワーク)セキュリティルーター含む	400,000	総額2,000,000円のうち 5年償却として

事務費賃借料	全体	コピー機　事務所内　1台(特養・センター)	450,000	総額2,400,000円のうち　5年償却として
事務費賃借料	全体	加湿機・食器洗浄機・PC8台分・ESシステム(5	1,200,000	
賃借料			2,050,000	
委託費	地域包括	地域包括支援センター	4,783,860	
委託費	全体	BCP委託費用(株)フォックスブルーへのコンサル	240,000	
委託費	全体	第三者評価受審	1,000,000	
委託費	全体	清掃業務	1,600,000	
委託費	全体	ビル管理	4,800,000	
委託費	全体	夜間警備	1,908,096	
委託費	全体	リハビリ委託	2,000,000	
委託費	全体	ゴミ処理委託	2,000,000	
委託費	全体	会計業務委託	2,500,000	
委託費	全体	ストレスチェック関係業務	135,000	
委託費	全体	委託給食	27,200,000	
委託費	全体	ホームページ保守委託	124,000	
委託費			48,290,956	
合　　計			¥69,615,956	

（3）労務管理

中長期計画	確実な就職ルートの開拓と計画的な人員配置の実現

年度目標

(1) 確実な職員採用をめざす。

(2) コンプライアンス上の配置基準・加算基準を明確にする。

実施計画

(1)	(職員採用に関して) 介護養成校(下記記載の１７校）と情報交換をし、採用に向けての新規ルートを開拓する。 また実習担当職員と連携をとり、実習校との関係性を強くし、実習生からの採用ルートを確保する。
(2)	(コンプライアンスに関して) 配置基準・加算基準に沿った算定表(チェックリスト）を事業所ごとに明確化し、毎月作成された勤務表を基に作成し、法令順守されていることを確認する。

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
旅費交通費	訪問もしくは郵送通じての経費	¥20,000	各校訪問ないし郵送
広報費	求人広告	¥100,000	職員募集
合　　計		¥120,000	

対象とする養成校一覧（17校　千葉県方面も含む）

（東京福祉専門学校・読売理工医療福祉専門学校・日本福祉教育専門学校・
東京福祉保育専門学校・大原医療秘書福祉保育専門学校・首都医校・
千住介護福祉専門学校・彰栄保育福祉専門学校・東京医療秘書福祉専門学校・
淑徳大学短期部・大妻女子大学・）

他　千葉県北西部周辺の育成校（聖徳大学・植草学園短期大学・江戸川大学総合福祉専門学校

松山学園松山専門学校・中央介護福祉専門学校・京葉介護福祉専門学校

採用ルート

①ハローワークでの募集
②東京都(千葉県含む)福祉人材センター・東京都ナースバンクへの登録募集
③養成校及び実習校への求人票配布・訪問
④求人情報会社(ネットへの掲載含む)への登録掲載
⑤求人広告（オリコミ・ネット）の利用
⑥人材紹介・派遣会社への求人依頼

3．災害対策

防災委員会の実施/防災訓練

中長期計画	全職員が、災害時における役割を理解し、行動できる。

年度目標
(1) 火災時に、利用者の避難誘導を安全に行えるようにする。
(2) 災害時の役割を理解し、BCPに沿った行動を意識出来る。

実施計画
(1) 利用者の避難誘導方法を周知できるように、通常の訓練とともに各種会議やミーティングにて委員を中心に図上演習（F.I.G）を通じて周知を行う。訓練上の改善点があれば修正変更し、以後の訓練に活かしていく。
(2) 年度中に2回のBCP、防災に関する研修と、各課毎のミニ研修を実施。毎月の訓練は、計画に沿って実施と評価をすることで職員の防災意識を向上させていく。

＜年間防災訓練計画＞

日付	訓練内容	消防署要請	備考
4月	水消火器での消火訓練、	有	全職員
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	介護課会議
	設備、備品等の確認	無	新入職職員、他
5月	火災時の通報、避難訓練（夜間想定）	有	特養、利用者
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	特養１階フロアーM
6月	火災時の通報、避難訓練（夜間想定）	有	特養、利用者（警備員、IPS含む）
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	特養2階フロアーM
7月	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	特養3階フロマーM
8月	火災時の通報、避難訓練	有	センター職員、利用者
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	通所連携会議
10月	BCP（ＢＣＰに基づいた訓練）	有	全職員
	設備、備品等の確認	無	新入職職員、他
11月	水消火器での消火訓練、	有	全職員
	北小岩保育園児の水害時避難訓練	無	全職員
12月	火災時の通報、避難訓練（昼間想定）	有	特養、利用者
	地域との総合防災訓練	有	全職員
1月	火災時の通報、避難訓練（昼間想定）	有	特養、利用者
2月	火災時の通報、避難訓練	有	センター職員、利用者
3月	BCP（ＢＣＰに基づいた訓練）	有	全職員

＜年間防災研修計画＞

日付	研修内容
5月	事業継続計画（BCP）について
6月	初期行動マニュアルと事業継続計画（BCP）について（特養）
7月	初期行動マニュアルと事業継続計画（BCP）について（デイ）
8月	初期行動マニュアルと事業継続計画（BCP）について（居宅）
9月	初期行動マニュアルと事業継続計画（BCP）について（包括）
10月	初期行動マニュアルと事業継続計画（BCP）について（特養）
10月	非常災害に備えて

＜地域との防災会議＞

日付	会議内容	会議参加者
6月	防災会議（今年度の計画報告、意見交換）	地域関係者、消防関係、施設職員
11月中旬	防災会議（総合防災訓練実施打ち合わせ、相互協力の確認）	地域関係者、消防関係、施設職員

＜消防団員の年間計画＞

日付	計画事項	日付	計画事項
4月	3分団定例総会・2部懇談会	10月	第35回江戸川区区民祭り/合同点検/上級救命
5月	定例訓練	11月	第35回北小岩祭り/震災消防演習
6月	定例訓練	12月	年末火災予防運動
7月	定例訓練	1月	小岩消防団団始式/親睦会旅行
8月	定例訓練	2月	若手団員意見交換会
9月	上小岩小学校総合避難、防災訓練	3月	春の防火予防運動

＜防災用備蓄食糧在庫表＞（100名×5日分）

品名	個数	納入日	賞味期限
アルファ米　白飯5kg（50食分）	1	H26.6.5	H31.11
アルファ米　白飯5kg（50食分）	1	H25.5.21	H30.5
アルファ米　エビピラフ5kg（50食分）	1	H25.5.21	H30.4
アルファ米　ドライカレー5kg（50食分）	1	H26.9.19	H32.2
アルファ米　五目御飯5kg（50食分）	1	H24.12.1	H30.1
アルファ米　山菜おこわ5kg（50食分）	1	H27.1.19	H32.5
アルファ米　白粥ﾊﾟｯｸ40g→粥で320g	200	H26.9.19	H32.1
アルファ米　白粥ﾊﾟｯｸ40g→粥で320g	100	H24.9.19	H29.8
保存用けんちん汁レトルト（250ｇ）	45	H27.1.19	H30.1.16
保存用豚汁1号缶（約20食分）	4	H26.6.5	H29.4.22
スーパー保存水2ﾘｯﾄﾙ	252	H26.9.19	H31.9.1
ウィンナー缶（105g）	24	H24.9.19	H31.3.21
さんま蒲焼T2ｋ缶（1400g）	4	H26.6.3	H29.5.1
さんま昆布煮T2ｋ缶（1400ｇ）	2	H26.6.3	H29.4.28
鯖みそ煮缶T2ｋ缶（1410g）	2	H26.6.3	H29.4.22
カレー1号缶（3000g）	3	H28.6.21	H31.5.30
カレー1号缶（3000g）	6	備蓄品追加分	
パン缶救缶鳥(2号)15缶入り×4箱	60缶		
えいようかん　60ｇ×5個入×40箱	200個		
カロリーメイトゼリーアップル215ｇ×6個×20箱	120個		
アルファ米　白飯5kg（50食分）	2		
アルファ米　五目御飯5kg（50食分）	1		
アルファ米　白粥ﾊﾟｯｸ40g→粥で320g	100		
保存用けんちん汁レトルト（250ｇ）	45		
保存用豚汁レトルト（250ｇ）	90		
スーパー保存水500ml	888		
ウィンナー缶（105g）	48		
さんま蒲焼T2ｋ缶（1400g）	1		
さんま昆布煮T2ｋ缶（1400ｇ）	1		
鯖みそ煮缶T2ｋ缶（1410g）	1		

※保管場所については、緊急時即対応ができるよう施設内各部署にて保管

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
給食費		¥300,000	備蓄食糧
消耗器具備品費		¥19,400	AEDパット
雑支出		¥30,000	炊き出し訓練材料費
		¥10,000	拡声器災害対策用2台
		¥20,000	医薬品セット×4
		¥90,000	簡易トイレ×900
		¥10,000	カセットガスボンベ
		¥6,000	災害用ブランケット×50
		¥13,600	ヘッドライト
		¥5,000	水用ポリタンク

		¥10,000	照明用品
	ミルク、オムツ	¥10,000	乳幼児用品
		¥1,000	バール
		¥1,000	ハンマー
	お土産代	¥10,000	総合防災訓練雑費等
		¥15,000	その他備品
事務消耗品費	¥2,000×2	¥4,000	会議資料代
通信運搬費	¥250×4	¥1,000	郵送・通信費など
合　　計		¥556,000	

4．広報活動

（1）広報委員会

中長期計画	高齢者をとりまく環境変化の問題提起としての情報発信と人材確保に通じる情報発信ができる。

年度目標

(1)	季刊広報誌を確実に発行し、毎号に特集記事として、高齢者を取り巻く環境変化に係る問題等、テーマを決定し、年間を通して記事を載せる。
(2)	下記の内容について検証する。 ①顧客確保、人材確保に使えているか ②地域の人に還元しているか ③十分に施設内容が公開されているか。

実施計画

(1)	平成３０年度介護保険改正を視野に、利用者や地域住民にわかりやすく情報提供をする。 「これからの高齢者施策について」
(2)	ホームページの適正な更新をする。 各事業内容が適切に理解できるようホームページの内容改善を図る（ホームページアンケート実施）

（平成２９年度・実施計画）

開催月	各月委員会（第一水曜日開催）・内容
4月	広報誌春号発行月（20日発行）、広報誌夏号編集会議
5月	ＨＰアンケート検討
6月	ＨＰアンケート原案提示
7月	広報誌夏号発行月（20日発行）、広報誌秋号編集会議、ＨＰアンケート完成
8月	ＨＰアンケート実施（8月より１１月末まで）
9月	ＨＰアンケート実施中
10月	広報誌秋号発行月（20日発行）、広報誌新年号編集会議
11月	広報誌・ＨＰアンケート集計
12月	広報誌・ＨＰアンケート報告
1月	広報誌新年号発行月（20日発行）、広報誌春号編集会議、次年度事業計画検討
2月	次年度事業計画確定
3月	事業計画評価

広報誌作成の流れ

発行月2ヶ月前	広報委員会にて編集会議（原稿依頼）
発行前月３０日	原稿回収
発行前月１日 ～発行前月15日	編集・校正
発行前月15日 ～発行前月25日	稟議（誤字脱字チェック、修正）
発行前月末	印刷（業者）
発行月15日	送付（特養利用者家族郵送分）
発行月20日	配布（各サービス、ボランティア、民生など）

ＨＰ更新の流れ（毎週金曜日）

第１週	デイサービス(一般)（熟ふれ）
	タイムリーなインフォメーション
	特養の出来事/事故報告
	タイムリーな話題
第３週	デイサービス(認知)
	タイムリーなインフォメーション
	特養の出来事
	タイムリーな話題
毎週	特養メニュー

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
印刷製本費	広報誌印刷製本代	¥400,000	広報誌印刷
委託費	広報誌レイアウト編集代	¥103,680	広報誌編集
	¥9,720（月額）×12か月	¥116,640	ＨＰ保守
	年額	¥7,350	ドメイン管理料
合　　計		¥627,670	

5．人材育成

中長期計画	キャリアパスの定着化と適切な人事評価の実施及び職制の権限と分掌事務の整理

（１）人材育成委員会の設置

年度目標

(1) キャリアパスに基づいた人材育成を人事考課システムに連動させ、職員の育成を図る。

実施計画

(1) 昨年度検討した人材育成・評価シートを研修も含め確実に各部署、各職員に浸透させ、平成３０年度人事考課を目途に　シートの評価、見直しを行い、完成させる。

(2) キャリアパスをもとに階層別のキャリアに即した研修の情報収集を行い、外部研修への参加をさせる。

(3) 悉皆研修を含め職員に必要な研修を実施する。（２）職員研修参照

(4) 自己啓発支援（自己啓発支援制度、江戸川光照苑職員研修等支援）をアピールし、また外部研修一覧を見やすいところに設置（特養棟、センター棟に設置）し、職員の自己啓発を促す。

日　付	内　　容
4月	関係部署ヒアリング
5月	関係部署ヒアリング
6月	人材育成・評価シートの修正
7月	研修会実施（人材育成ツールのマニュアル等説明、管理職向け）
8月	研修会実施（人材育成ツールのマニュアル等説明、一般職員向け）
9月	人材育成・評価シート作成
１０月	人材育成・評価シートの進捗確認
１１月	人材育成・評価シートの進捗確認
１２月	人材育成・評価シートの課題、検討
1月	人材育成・評価シートの課題、検討
2月	人材育成ツールの評価
3月	人材育成ツールの改善

（2）職員研修

施設内研修（全体研修）

※　特養悉皆研修に関しては必ず、主任以上の職員を参加させ、フロアミーティングで未受講者に実践指導し、記録すること。

日　付	内　　容	講　　師	金　額
4月	事故発生防止について（悉皆）	外部講師	
5月	事業継続計画について	フォックスブルー	
6月	食中毒防止について（悉皆）	江戸川区保健所	
7月	救命技能認定研修	小岩消防署	
8月	認知症ケアに関する研修	外部講師	
9月	高齢者の権利擁護～身体拘束や虐待防止についての取組	外部講師	
10月	インフルエンザ・ノロウィルス感染まん延防止について（悉皆）	看護課	
11月	非常災害に備えて	フォックスブルー	
12月	事故発生防止について（悉皆）	外部講師	
1月	看取り介護について（悉皆）	介護課	
2月	倫理及び法令順守に関する研修/ハラスメント研修	内部講師	
3月	褥瘡予防について（悉皆）	外部講師	
合　　計			¥0

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
研修研究費	¥5,000×80件	¥400,000	外部研修
報酬費	¥26,000×5名+¥20,000×1名	¥150,000	講師料
合　　計		¥550,000	

（3）実習生受入れ（施設実習担当委員会）

年度目標
(1) 定期的な新卒採用を目指し、受け入れ学校、実習生の情報を管理課と共有し採用を目指していく
(2) 実習生の効果的な育成を目指し、実習受け入れ学生の情報を担当者で共有し、指導方法を調整し個々にあった実習指導を行っていく
実施計画
(1) 管理課と連携し、実習生を新規採用に繋げていく。 採用職員としての適否を判断（実習担当者）→介護課会議での検討→管理課への情報提供（求人票の提供） →本人、学校への連絡
(2) 担当者を各フロアに選定。実習受け入れ前に担当者で検討し配属フロア決定。その後実習中の学生の情報、習熟状況を担当者で共有。個々に合った実習指導方法を検討、実施をおこなっていく。

〈今年度予算〉（収入の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
受入れ研修費収入	¥1500×7名　120日間	¥180,000	東京福祉専門学校
	¥3240×4名　72日間	¥233,280	NHK学園
	¥3240×4名　88日間（社会福祉実習含む）	¥285,120	大原医療福祉保育
	¥3240×2名　46日間	¥149,040	東京成徳大学
	¥2160×2名　30日間	¥64,800	読売理工医療福祉専門学校
	¥2000×1名　19日間	¥38,000	貞静学園
	¥3240×1名　24日間	¥77,760	聖徳大学
	¥2000×3名　75日間	¥150,000	日本福祉大学
	¥1500×3名　15日間	¥22,500	社会福祉施設等体験事業
合　　計		¥1,200,500	平成28年度の実績をもとに算出

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
通信運搬費	¥20,000	¥20,000	郵送代
事務消耗品	¥10,000	¥10,000	コピー用紙等
旅費交通費	¥10,000（交通費など）	¥10,000	各種実習連絡会
研修研究費	￥３２４００×２名	¥64,800	実習指導者講習会
合　　計		¥104,800	平成２８年度の実績をもとに算出

6．ボランティアの拡充

中長期計画	ボランテイア受入の仕組みを確立し、ボランティアを有効に活用し、利用者の生活全般の向上かつ、現場の職員の業務負担の軽減を図る。

年度目標
(1) 利用者が快適で豊かな日常生活が送れるように生活ボランティアの増員を目標とする。
(2) 職員の意識向上の為、ボランティアと職員の関係作りをサポートし定着に繋げる。

ボランティア担当活動計画

実施計画
1） 季節ごとのスケジュール、具体的な募集内容を広報誌・HPに掲載し活動の場を周知。若年層のボラ獲得の為学校等へチラシ配布。
2） 受入の確立、継続までの支援をボランティアコーディネーターが中心となり職員に周知していく。
3） 7月→納涼祭・9月→光照苑祭・１１月→懇談会・2月→次年度の事業計画考案。必要に応じてコーディネーターを中心にボランティアを交えた意見交換会を実施。利用者の満足度を上げるよう取り組んでいく。

〈今年度予算＞（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
雑支出	￥2000×60名	¥120,000	懇談会費
	1ヶ月¥1500×12ヶ月	¥18,000	お茶菓子代
	¥300×６０名	¥18,000	保険切り替え
	布・糸・その他修繕	¥10,000	縫い物品代
	花束代	¥10,000	保育園・中学等のお礼
広報費	¥20×500枚	¥10,000	募集チラシ
合　　計		¥186,000	

7．サービス内容に関する苦情受付対応

年度目標
(1) 利用者、家族、地域の方からの苦情への対応は、当苑のすべての部門において、最優先すべき課題であると位置づけ、迅速かつ適切・誠実に対応する。

実施計画
(1) 苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や状況に配慮した適切な対応を図るために第三者委員を設置する。

苦情処理体制

1）当法人苦情相談担当

苦情解決責任者：鈴木　文子（社会福祉法人光照園　理事長）
苦情受付担当者：毛部川　三男（社会福祉法人光照園　常務理事）
第三者委員　　：大江　尚樹（社会福祉法人厚生会　理事長）
第三者委員　　：石川　武敬（民生・児童委員）
第三者委員　　：宇田川　康（宇田川整形外科内科診療所医師）

2）当施設苦情相談担当

苦情解決責任者：日比谷　登志子（江戸川光照苑　苑長）
苦情受付担当者：福島　芳明（江戸川光照苑　施設サービス部長）
苦情受付担当者：柴田　一佐哲（江戸川光照苑　居宅サービス部長）
苦情受付担当者：館山　幸子（江戸川光照苑　地域福祉部長）

3）その他

都道府県　東京都国民健康保険団体連合会
担当：介護保険部　相談指導課
区市町村　江戸川区
担当：介護保険課　事業者調整係

8．委員会

（1）アメニティ向上委員会

年度目標

(1) 利用者の視点にたった彩りある生活環境の整備

実施計画

①	花と潤いのある生活をめざし、花を絶やさない環境作りを計画実施する。
②	安全安心な環境整備のため、定期的な見守りを実施し、環境改善向上を提言していく。

科目	項　目	内　訳	金　額（消費税込み）
雑費	外観装飾(園芸等)	苑外園芸や電飾等装飾用	¥50,000
教養娯楽費	室内園芸	特養・ｾﾝﾀｰ各事業所	¥60,000
合　計			¥110,000

（2）ハラスメント委員会

年度目標

(1) 各種ハラスメントの防止の徹底

実施計画

(1)
委員自身のハラスメント研修への参加　(年１回　外部研修への参加を計画)

委員会活動の活発化
２か月に１回　情報交換も含めた委員会活動を開催。
委員会活動の内容
啓蒙活動計画の作成実行（職員研修の実施計画・啓蒙チラシの作成掲示）

〈今年度予算〉（支出の部）

科　目	積　算　内　訳	予　算　額	備　　考
研究研修費	委員用外部研修	¥50,000	
合　計		¥50,000	

（3）労働安全衛生委員会

	実施計画
(1)	活動内容 ・産業医の定期巡回による実施評価 ・腰痛予防のための積極的な取り組みを実現する。 ・感染症の拡大予防への積極的な取り組みを実現する。 ・事前に実施した職員ｽﾄﾚｽｱﾝｹｰﾄを元に、ｽﾄﾚｽ状況の課題問題点を明らかにし、関係各部署と対応策を協議し、よりよい環境作りを再構築していく。
(2)	ストレスチェック実施 昨年同様、職員自らのストレスへの気づきと職場環境改善のためにストレスチェックを実施し、職員ストレスアンケートの結果と合わせ、メンタルヘルス不調になることを未然に防止する。

XII. 中長期計画

Ⅻ. 中長期計画

中長期計画（介護老人福祉施設）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	要介護の高い方や見守りが必要な方が増え、介護負担が増してきている。介護職員の人員確保と離職者を減らす為にも腰痛予防、ストレスの軽減化が必要である。	腰痛を原因とした離職率を０にする。
2	基本的な看取り対応が出来るようになってきている。ただし、看取ることに対しての家族との打合せ、段取り調整が出来ていない。	スムーズな看取り対応の確立と看取り介護マニュアルの修正
3	誤嚥性肺炎、感染症対策など利用者に関わる対応の向上が必要である。	施設での安全性の向上
4	5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）の定着がまだできていない。またケアプランを基本とした介護上のスキルの向上が必要である。	職員の質の向上
5	利用者事前面接の調整や受入れる体制等が、上手く機能しておらず、稼働率の確保に障害があるため安定的な収入確保に至らない。	事業経営稼働率の確保
6	便秘など排便のコントロールを食事から少しでも改善できる取組をみつけていく。	自然排泄を促すための献立作り

中長期計画（短期入所生活介護）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	在宅における介護生活の長期化、高齢者による介護により、介護者の疾病等、計画によらない利用ニーズが増加している。	介護職・看護職と連携し、緊急短期入所の１００％受入を目指す。
2	在宅生活の継続を可能とするためには、ＡＤＬ，ＩＡＤＬの維持・向上が不可欠であるが、短期入所の場合、その計画的支援がされていない	ＡＤＬ，ＩＡＤＬの維持向上のための機能訓練の確立
中長期計画（居宅介護支援事業）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	ケアマネージャーのキャリアや知識の違いがあるため利用者に不利益や適切な支援を提供できない恐れがある。	情報共有のルールの構築・計画的な内部研修の定着
中長期計画（一般型通所介護事業）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	介護保険改正に伴い介護給付費の抑制が予想されることから安定収入の確保が厳しくなる。また今後、重度の要介護者の受入れが必須になる。	平均要介護度1.78（平成27年1月現在）を平成29年度には平均介護度３に引き上げる。
2	事業所内の各セクションの連携を取り、利用者の生活行為向上のための機能訓練を中心とした体制を取らなくてはならない。	利用者の生活行為向上のためのプロセスの共有と職種間の役割の明確化
3	在宅での生活の継続支援のために、高齢者に適した食事が家庭においても提供できる必要がある。在宅利用者の栄養改善への取り組みが不十分	利用者の栄養改善支援の確立による在宅生活継続支援

中長期計画（認知症対応型通所介護事業）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	ご自宅での生活状況の把握が不十分であり、利用者家族との関係性の強化が課題である。	施設のノウハウを家族に提供し、在宅生活の安定した継続支援の確立。 利用者家族との関係性の強化と顔の見える関係作りを構築する。

中長期計画（江戸川区委託事業）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	（地域包括支援センター） 本室と分室との情報共有等が不十分であり、地域活動を十分に行えていない	本室と分室との連携体制を確立すると共に、地域の特性に則した形での地域活動を充実させ、推進する。
2	（虚弱者向け配食サービス） 日常生活支援総合事業への移行	総合事業の情報を収集し、江戸川区の動向を踏まえ、地域のニーズを把握していく。
3	（熟年ふれあいセンター） 日常生活支援総合事業への移行	介護予防・生活支援サービス事業に於いて、利用者のニーズに応えられるよう、生活支援などの多様なサービスが提供されるよう支援する。
4	（いきいきトレーニング） 日常生活支援総合事業への移行	介護予防・日常生活支援総合事業の導入にあたり、現行の二次予防事業に相当する通所型サービスＣを実施する。

中長期計画（品質管理）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	手順書、記録物が多すぎて使いづらい。また文書の保管に関してのルールが曖昧である。	書類（手順書・記録・マニュアル）の整備、保管管理のルール化と適切な運用。 ※平成２８年度終了

中長期計画（管理部門）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	固定資産・備品購入と予算との連動ができていない	確実な執行体制の確立と設備・備品の購入計画の樹立
2	計画的な人事計画が未樹立のため、中堅職員の育成や退職後の職員補充に時間がかかっている。	確実な就職ルートの開拓と計画的な人事異動の実施。

中長期計画（栄養部門）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	調理機器や備品の劣化や耐久年数を各々明確にする特に高額の調理器具は購入などすぐに対応できない場合がある。	名年度の事業計画に反映する取り替え時期の計画の樹立 ※平成２８年度終了

中長期計画（災害対策）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	施設利用者ばかりでなく、地域住民の安全を守る拠点としての役割が十分確立しているとはいえない	全職員が、災害時における役割を理解し、行動できる。

中長期計画（広報）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	自施設の枠にとらわれた情報発信にとどまっている。社会福祉法人の使命として社会にそして地域に根差した情報の発信が必要である。また職員の人材確保が困難であり、ボランティアの数もなかなか増えてこない。魅力ある施設としての情報発信をすることで、有能な職員確保、ボランティアの増員を目指すことが必要である。	高齢者をとりまく環境変化の問題提起としての情報発信と人材確保に通じる情報発信ができる。

中長期計画（人材育成）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	職制毎の役割と求められる職員像が明確でないことから、職員の育成計画と職制の権限が不十分	キャリアパスの定着化と適切な人事評価の実施及び職制の権限と分掌事務の整理

中長期計画（ボランティア）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	これまでボランティアの受け入れについて、特養では仲介する職員配置がなく、対応に困っている状態である。そのため、ボランティアの受入れに関しての仕組みを見直し、改善していく。	ボランティア受け入れの仕組みを確立し、ボランティアを有効に活用し利用者の生活全般の向上かつ、現場の職員の業務負担の軽減を図る。

新中長期計画（平成２９年度～）
栄養部門：
利用者においしく、食べやすく、見た目よく栄養が満足される食事の提供と食を通しての健康の維持
品質管理
ＩＳＯ認証辞退に伴い、品質管理室会議の役割と目的の明確化